



四万十町

町内「**ぶらへり**」散策

天そらの川かわ

国道381号を南に折れ、クリーンセンター銀河へと向かう橋を渡る。渡ったところが天の川である。現在、18世帯34人が暮らしている。

「そらのかわ」という地名の由来は諸説あるのだが、山から木を切り出し、斜面を利用して降下させるための滑走路「修羅（しゅら／すら／しら／ひら）」この地の場合は、すらが訛ったのではないかという説が有力らしい。天の川は古来より林業が行われていたということが、この説を後押ししている。戦国期・天正17年の地検帳にはすでに「天之川村」の文字があることからすると、この地での林業は、戦国期以前からの歴史があるということになるのかもしれない。

ちなみに、この「修羅」であるが、山の斜面にある凹部をそのまま利用してそこを滑らせる「土修羅（どしゅら）」、谷水をせき止め、この水を利用する方法を「水修羅（みずしゅら）」、そして丸太や厚板などを樋の形に組んで、滑り台のような形を作って滑走させる「木修羅（きしゅら）」という方法が古くからあるそうだ。

天の川は、若井、大向などと同様、古くから農業用水には苦勞した地区で、人々は複数のため池を作り農業に従事してきた。現在は四万十川か



きれいに整備されたため池

らポンプアップする技術があるが、3カ所のため池は今も現役なのだという。

また、天の川は農林畜産業を複合的に営む人が多かった。これは、農業用水がふんだんにあるわけではなかったことと無縁ではない。地区の人々は、林業や畜産業を組み合わせることで、生活を維持してきたというのである。

天の川の産土神は「音無（おとなし）神社」である。江戸時代初期までは方尺庵というお寺もあったという。さて、みなさんご存知の通り、天の川にはクリーンセンター銀河や斎場がある。頻繁にごみ収集車や斎場に向かう車が行き交う様子を見るにつけ、町民として、地区民の方々への感謝の気持ちを禁じえない。

町のうごき	(3月31日)		前月比		出生		死亡		転入		転出	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	8,086	8,954	-39	-54	3	2	13	22	51	42	80	76
	計	17,040	-93		計	計	5	35	93	156		
	世帯数	8,478	-20									(3月中の届出)
	窪川地域	12,059人			大正地域	2,377人			十和地域	2,604人		

四万十川の 水質状況	適正值(mg/l)		4月9日	
	項目	基準値	測定値	状況
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下		
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下		
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下		
アニオン活性剤	≤ 1.0	1.20		
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下		

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部